

トピックス

メコン河の橋がカンボディアのお札になり、 パラオの橋が土木学会・田中賞を受賞しました。

このたび、大島久技術士が関係した2事業が、カンボディアのお札に描かれ、土木学会田中賞を受賞されましたので、ご紹介します。

大島技術士は、北海道大学を卒業後、北海道開発局に入庁され、その後、本州四国連絡橋公団に奉職された橋梁の専門家で、現在は日本工営(株)顧問として活躍されていますが、北海道には深い縁があり、ご友人やゆかりの方が大勢北海道においでです。

お札にご自分の関係した事業が描かれることは珍しいことですが、カンボディアのお札には、表面に「メコン川の橋」(写真 上)が描かれ、裏面にはカンボディア国民の心のよりどころである「アンコールワット」(写真 下)が描かれています。

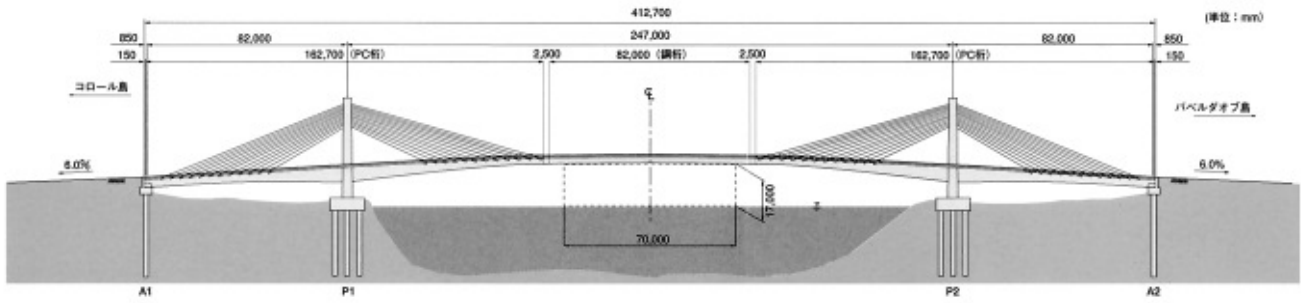
この橋は「KIZUNA」(絆)と名付けられた日本と

カンボディアの友好のシンボルで、日本の無償資金援助により2001年12月に完成しました。大島久技術士は1995年からこの橋の計画調査団の団長として計画と基本設計を、また工事中はプロジェクトダイレクターとして施工管理を総括されました。

カンボディアは雨季と乾季があるため、河川水位の変動は15mにも及び、毎年洪水に見舞われます。そのため、架橋はフェリーで往来していた国民の悲願でしたが、この橋はメコン河に初めて架けられた橋です。

橋台の像は5首の蛇(ガーナ)で、仏教寺院でお釈迦様をお守りしているものと同じですが、カンボディア人の仏教信仰でこの橋を守ってもらおうと考えて設計されたものです。





また、パラオの橋も日本の無償資金援助で 2002 年 1 月に完成したもので、「日本パラオ友好橋」と名付けられています。

大島久技術士はこの橋についても設計・施工管理の全てについて総括責任者として従事され、前年に完成した橋の中から優秀な作品が選考される土木学会・田中賞と、プレストレストコンクリート技術協会・作品賞を今年受賞されました。

この橋はパラオの首都があるコロール島と隣のバベルダオブ島とを結ぶ橋で、両島間のライフラインを支えていましたが、1996 年に突然崩落したため、新形式（3 径間連続複合エクストラード橋）として再建させたものです。

このように、北海道ゆかりの技術士が、日本で、海外で活躍されているニュースに接するにつけ、我々も大変勇気づけられろとともに、先輩の残した足跡をしっかりと踏みしめていかなければならないと、改めて感じましたので、ご紹介させて頂きました。

（文責：大熊 正信）

